



支笏湖地域が感じる 湖面利用の課題

一般社団法人国立公園支笏湖運営協議会

支笏湖地域が感じる湖面利用の課題

支笏湖の変化

湖面や支笏湖周辺の利用の増加

- ▶ インバウンドの増加
- ▶ コロナ禍でのアウトドアブーム
- ▶ 手軽なウォーターアクティビティの流行



地域の取組

令和元年

支笏湖温泉街

ローカルルールの策定

- ▶ 利用者への注意喚起やマナー意識の啓発



令和3年

課題共有の会の開催

- ▶ 支笏湖ローカルルール（仮称）議論スタート



近年の湖面・湖岸の利用における 地域が感じる課題

1

危険行為や安全への懸念

- 危険な遊泳行為（ライフジャケットなし）
- 水難事故の増加

2

マナー・利用ルール

- タープ・テント・キャンプ・サウナなどの増加
- 利用者間の軋轢・SUP等の放置
- ゴミ・トイレのキャパシティーオーバー
- ペットの放し飼い
- 迷惑行為を注意しても聞き入れない人が目立ってきた。

3

交通についての課題

- 登山者・釣り人の駐車場の増加
- 旧有料道路区間の危険
- 駐車や人が多すぎて緊急時に救助の妨げになる。

4

自然環境（景観）への影響

- 動物への餌やり
- 焚火（直火）

近年の湖面・湖岸の利用における 地域が感じる課題～解決のための課題

1

課題解決への難しさ

- 禁止事項や場所、その根拠が不明瞭
(自然公園法では禁止されていない事項などグレーゾーン)
- あいまいなルールが利用者・地域どちらも混乱を招いている
- 管理人、ルールについて注意する人はだれか。
(権限がないと聞き入れてもらえない・管理する側の責任)

2

これからの支笏湖について

- 『静かな佇まいの支笏湖』
- “利用するため”のルールをつくり、一般の利用者と支笏湖
を作っていく考えも大切
- 公平・平等な利用にしたい。
- 環境保全と利用バランスを取っていきたい。